

2 . 釧路川流域及び河川の概要

page

2 - 1 .	流域の概要	- 2 - 1
2 - 2 .	釧路川の諸元.....	- 2 - 3
2 - 3 .	釧路川水系縦断図.....	- 2 - 6
2 - 4 .	流域の地質	- 2 - 7
2 - 5 .	流域の土地利用・人口・農業・水産業	- 2 - 8
2 - 6 .	流域の気象（気温、降水量）.....	- 2 - 11
2 - 7 .	釧路川の流況.....	- 2 - 12
2 - 8 .	釧路川における主な既往洪水.....	- 2 - 13
2 - 9 .	釧路川の水質（BOD）経年変化	- 2 - 15
2 - 10 .	釧路川の利水状況.....	- 2 - 16
2 - 11 .	流域の主な景観・環境	- 2 - 18
2 - 12 .	釧路川の利用状況.....	- 2 - 25

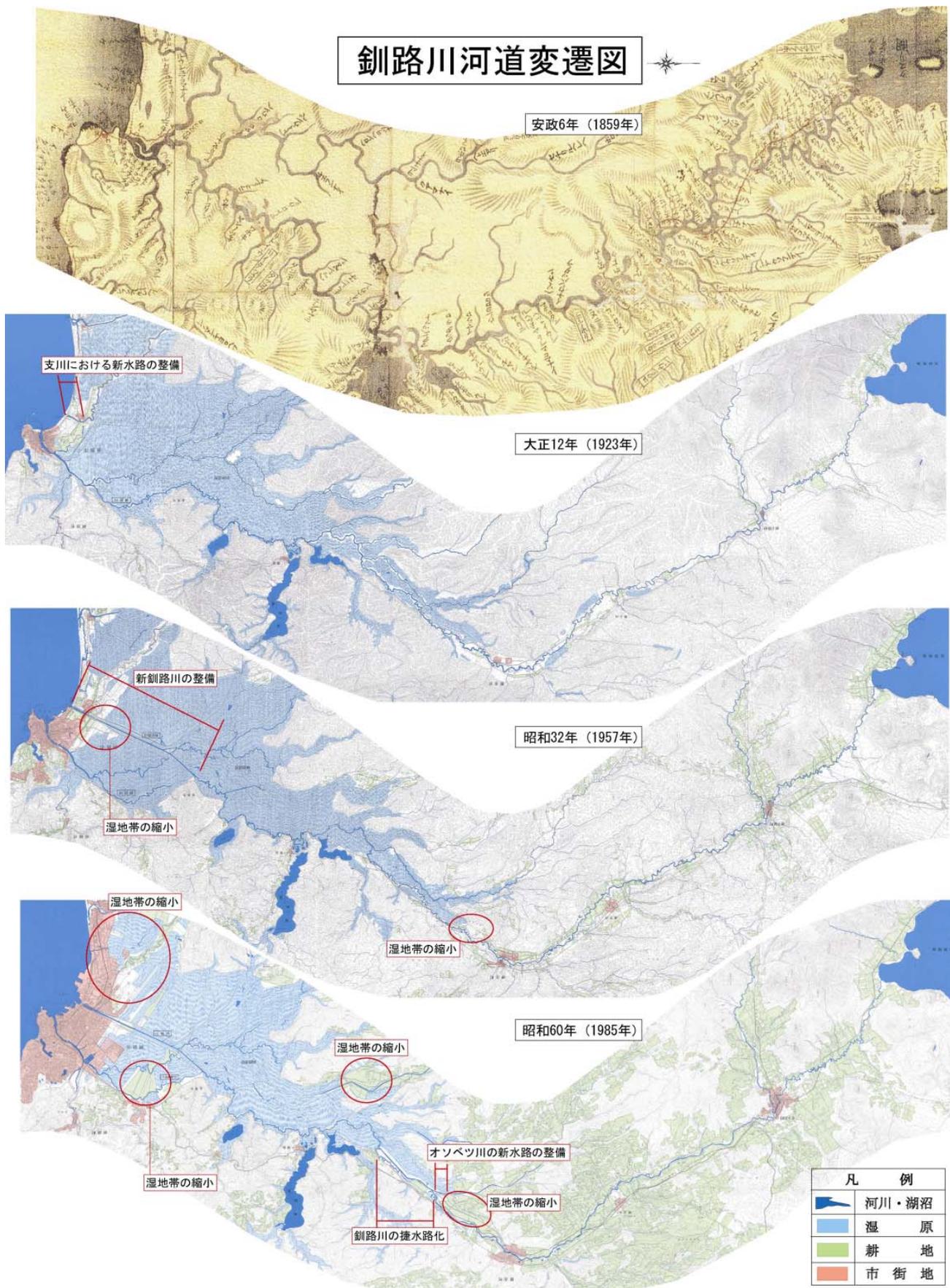


図 2-2 河道状況

2 - 2 . 釧路川の諸元

釧路川水系の全流域面積は2,510 km²で、屈斜路湖を含む本川部の流域が約830 km²、以下雪裡川、幌呂川、釧路川(旧川)、オソベツ川、仁々志別川、久著呂川、アレキナイ川、鑑別川の8支川が、100 km²を超える流域を持つ主要な支川として挙げられる。

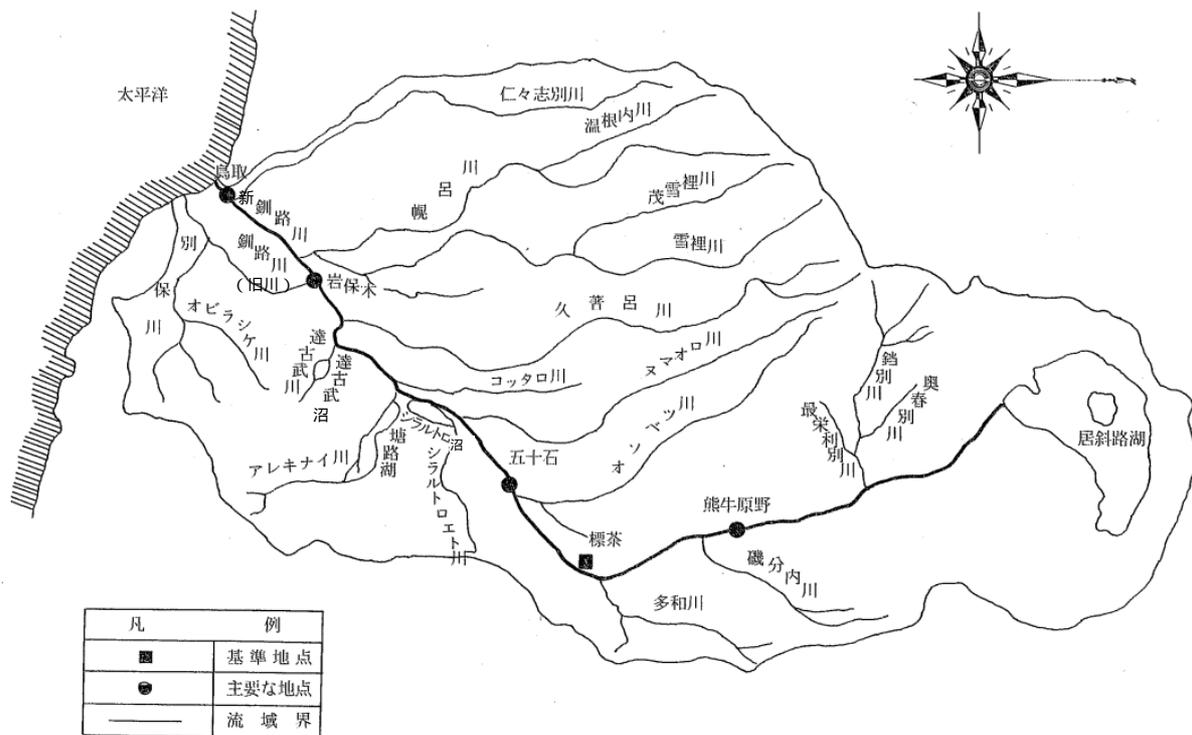


図 2-3 釧路川河川図

表 2-1 主要支川の流域面積及び流路延長 (法指定部分*)

	主要支川名	流域面積 (km ²)			流路延長 (km)		
		全体	山地	平地	総延長	本川流路長	2次支川
1	釧路川 (本川)	830.8	589.2	241.6	146.0	146.0	0.0
2	雪裡川	474.8	360.0	114.8	127.4	34.3	93.1
3	幌呂川	183.9	130.0	53.9	54.5	42.5	12.0
4	釧路川 (旧川)	172.0	89.9	82.1	66.2	16.0	50.2
5	オソベツ川	168.2	134.9	33.3	30.7	26.3	4.4
6	仁々志別川	152.3	100.6	51.7	38.5	35.0	3.5
7	久著呂川	144.9	101.5	43.4	45.0	45.0	0.0
8	アレキナイ川	141.2	127.0	14.2	33.3	19.3	14.0
9	鑑別川	137.8	115.3	22.5	15.5	14.0	1.5
10	ヌマオロ川	86.1	75.7	10.4	31.0	31.0	0.0
11	多和川	62.1	46.7	15.4	11.0	11.0	0.0
12	磯分内川	57.7	51.9	5.8	11.5	11.5	0.0

出典：「河川現況調査」平成11年7月

釧路川は、本川+屈斜路湖+尾札部川の合計

法指定部分*：河川法で管理している区間

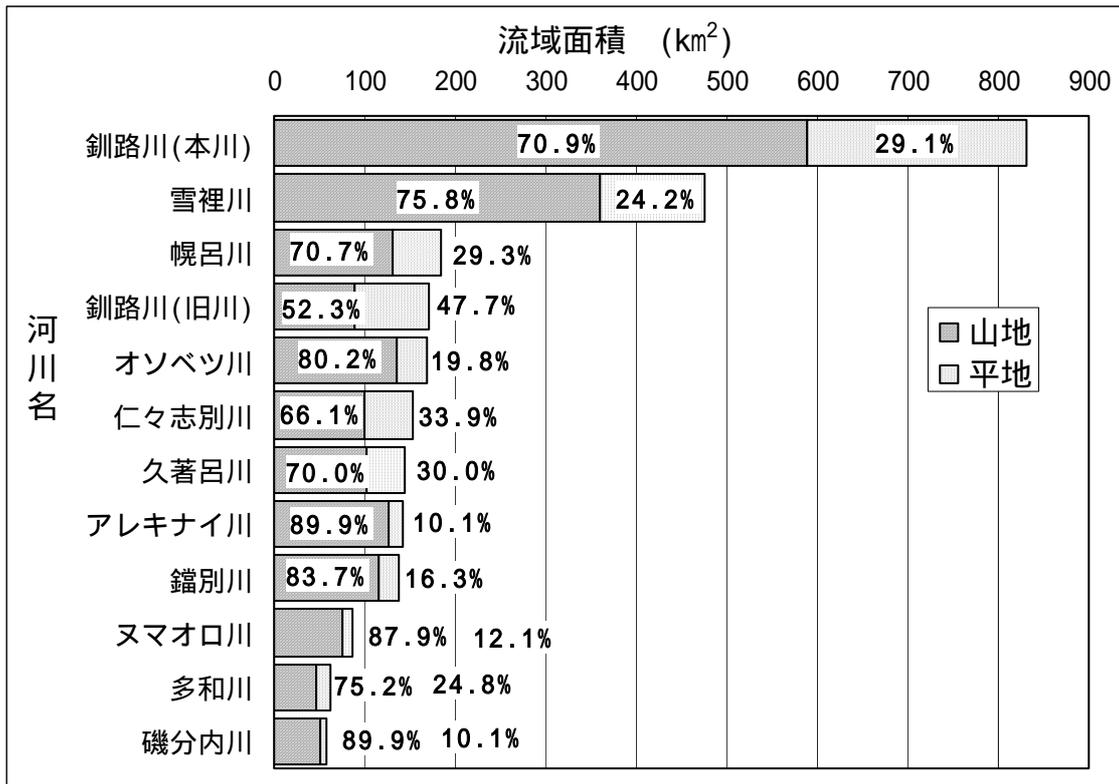


図 2-4 釧路川及び主要支川の流域面積

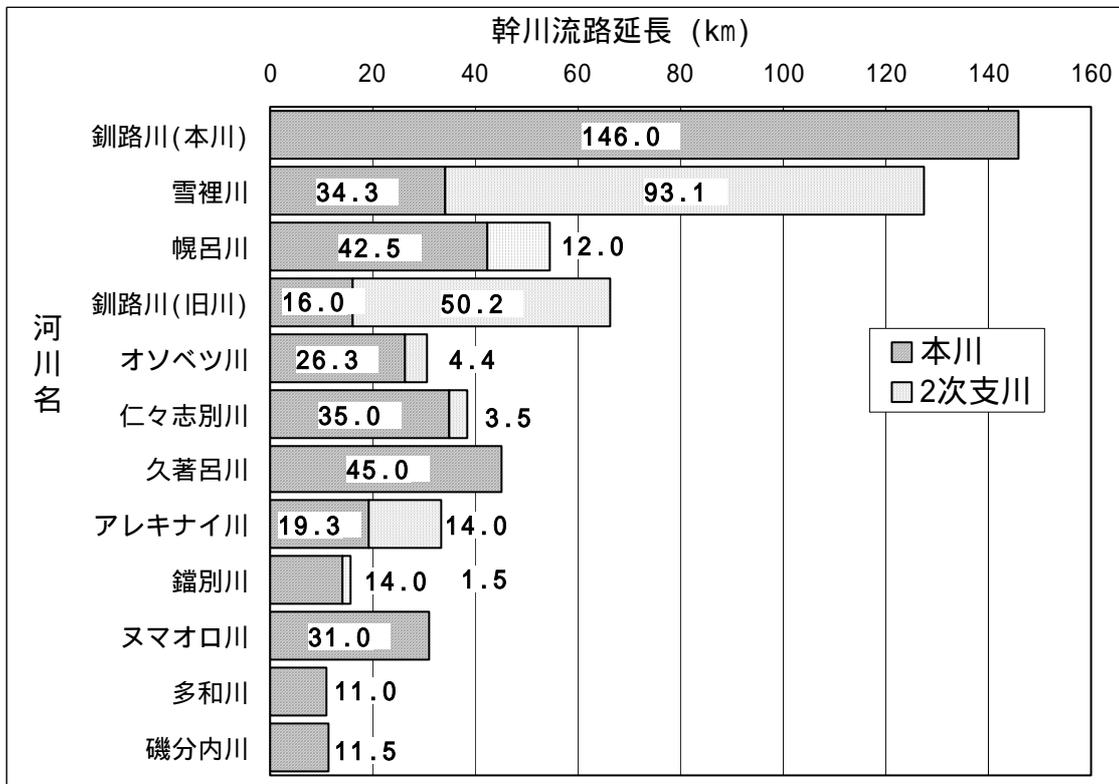


図 2-5 釧路川及び主要支川の流路延長

出典：「河川現況調査」 平成 11 年 7 月

【流域面積の比較】

釧路川水系の流域面積 2,510 km²は、道内では第4位、全国の一級水系では第25位に相当する。

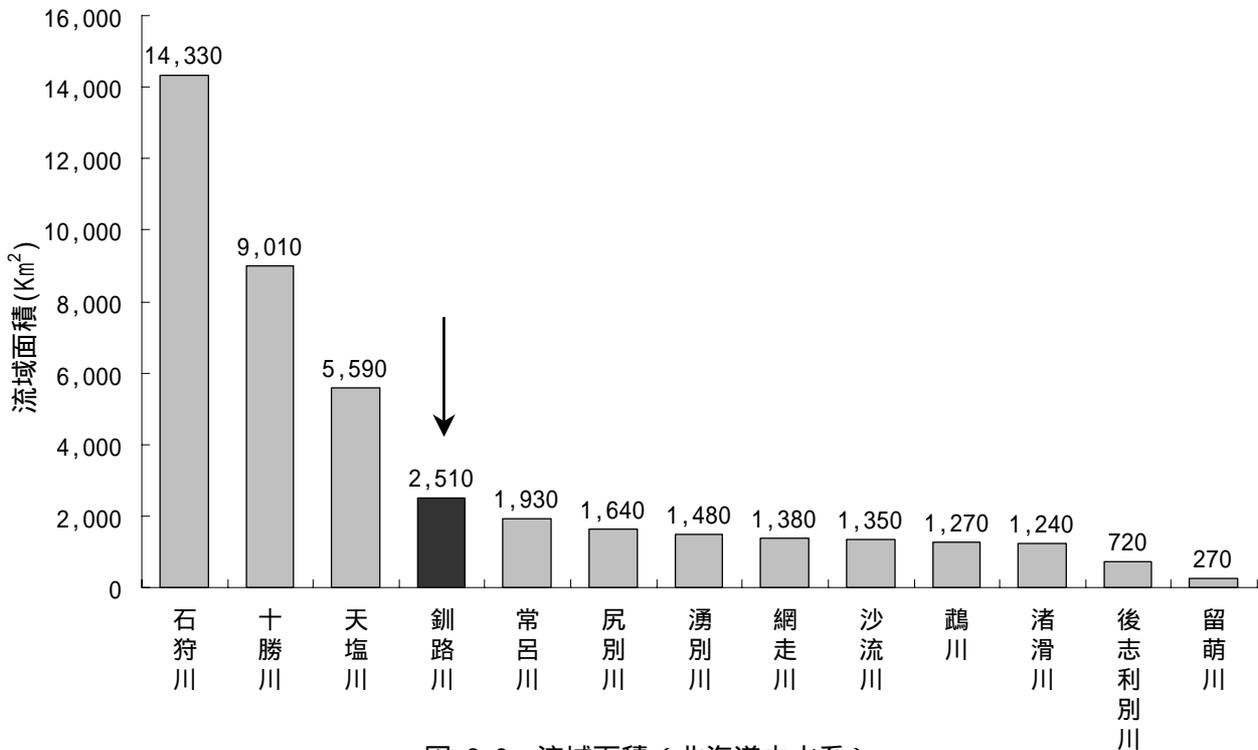


図 2-6 流域面積（北海道内水系）

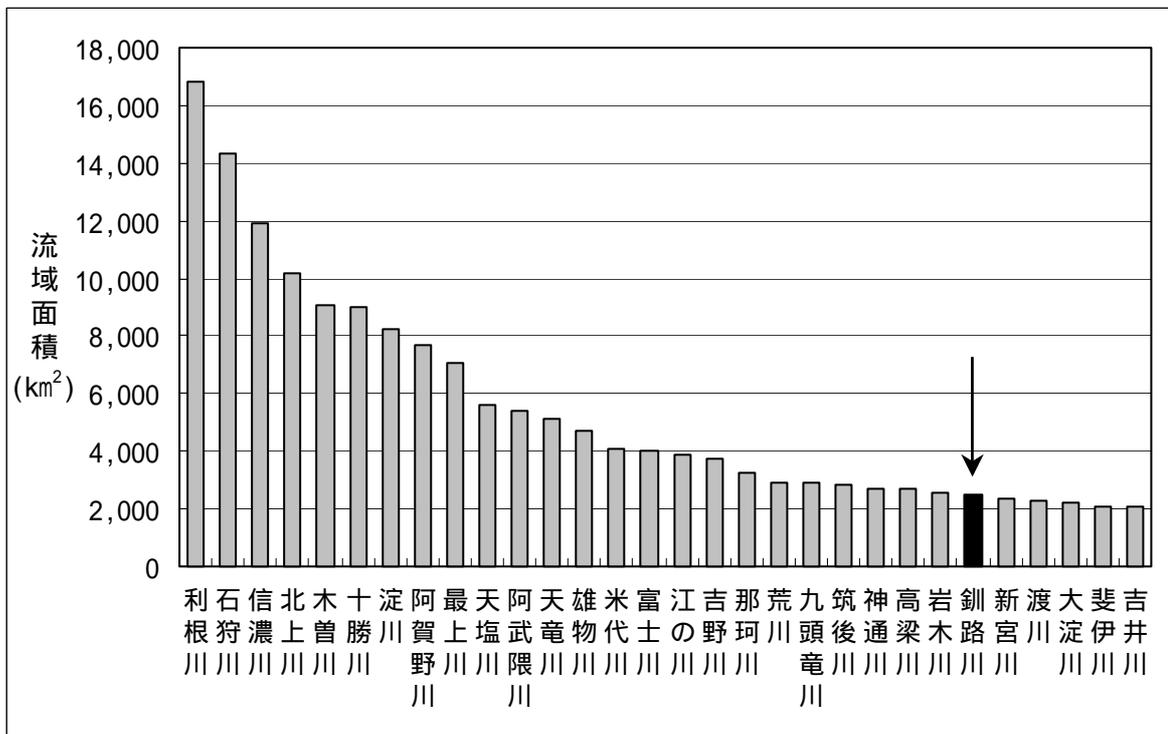


図 2-7 全国一級水系流域面積

2 - 4 . 流域の地質

釧路川流域の地質は、湿原に代表される泥炭地及び火山灰地で特徴づけられる。

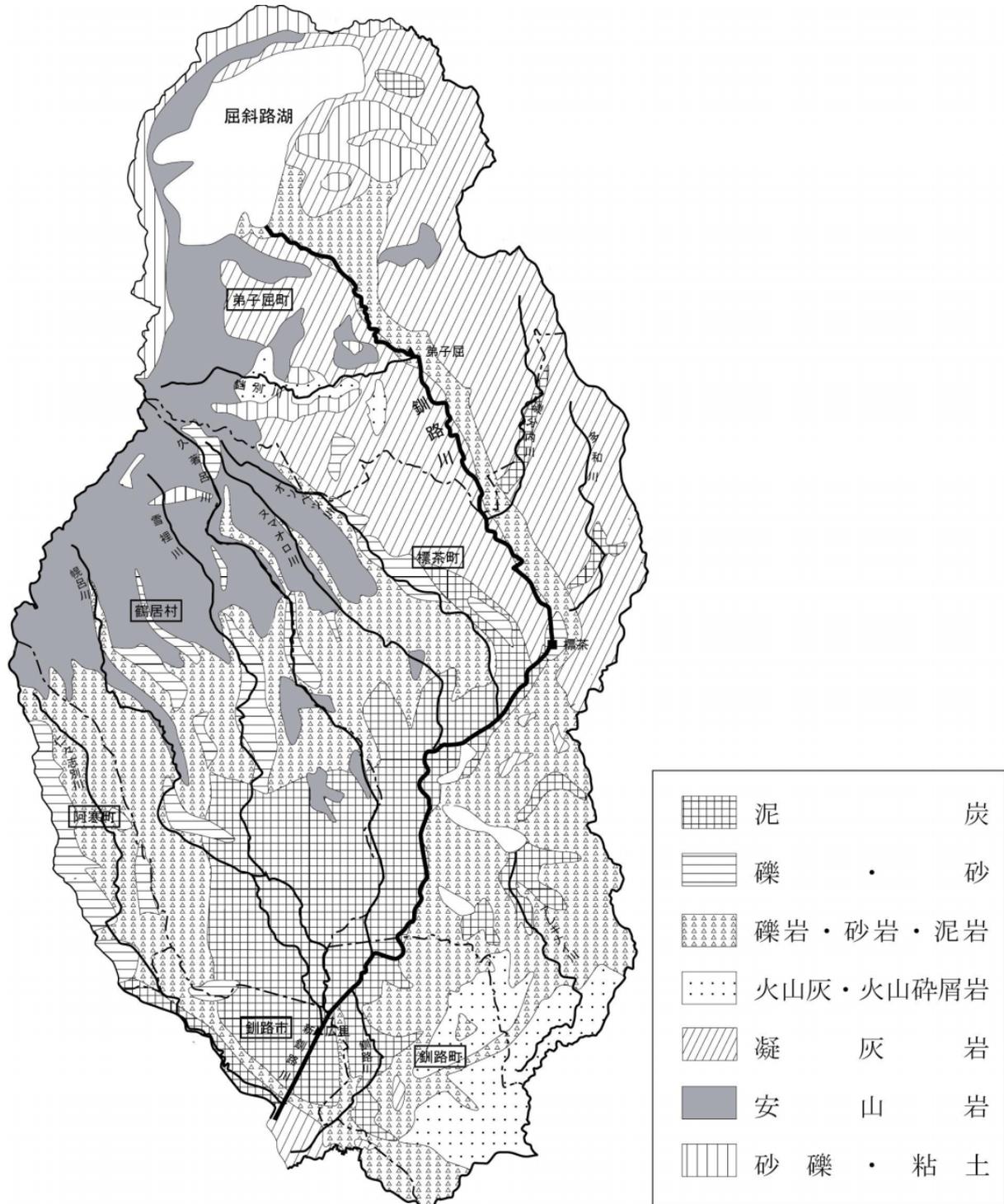


図 2-10 地質図

出典：「土地分類図付属資料」S54・国土庁土地局

2 - 5 . 流域の土地利用・人口・農業・水産業

(1) 土地利用

釧路川流域は、山林・原野の未利用地が大部分を占める。利用部分に関しては、流域の開発により宅地及び耕地の面積の増加が見られるが、変化は緩やかなものであり、近年は横這い傾向にある。

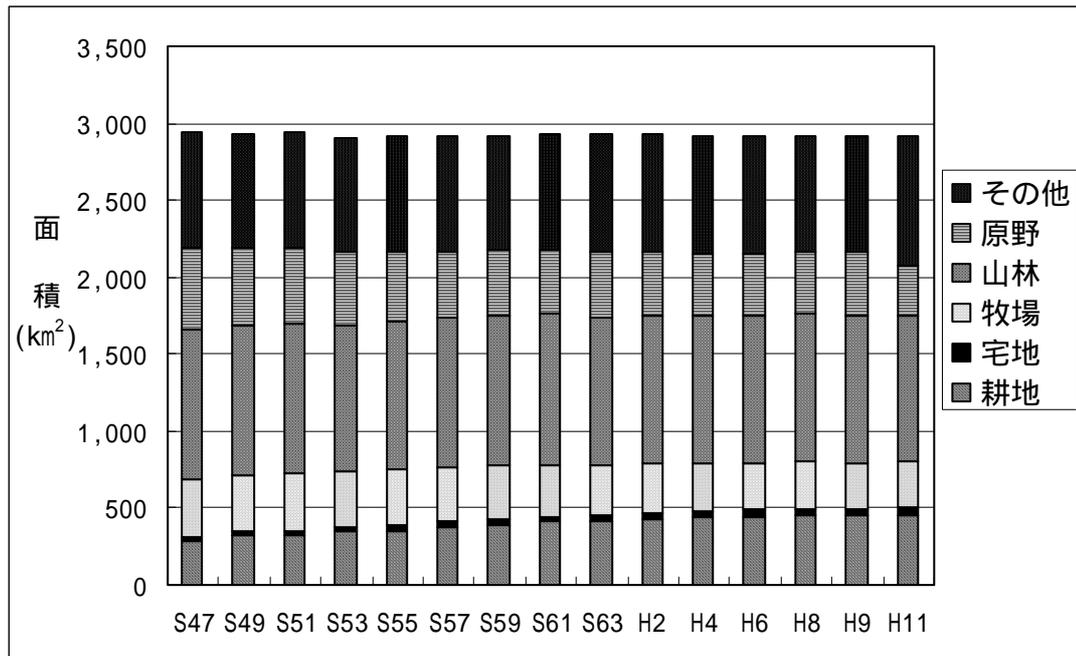


図 2-11 流域の土地利用状況 (関連市町村*合計値)

出典：「北海道市町村勢要覧」

関連市町村*：釧路市、釧路町、鶴居村、標茶町、弟子屈町
(阿寒町は、占有比率の関係から省略)

(2) 人口

流域関連市町村の人口は、昭和60年代まで増加し続け25万人を突破していたが、それ以降は漸減傾向にある。平成12年では24万人強であり、全道人口の約4.2%強に相当する。

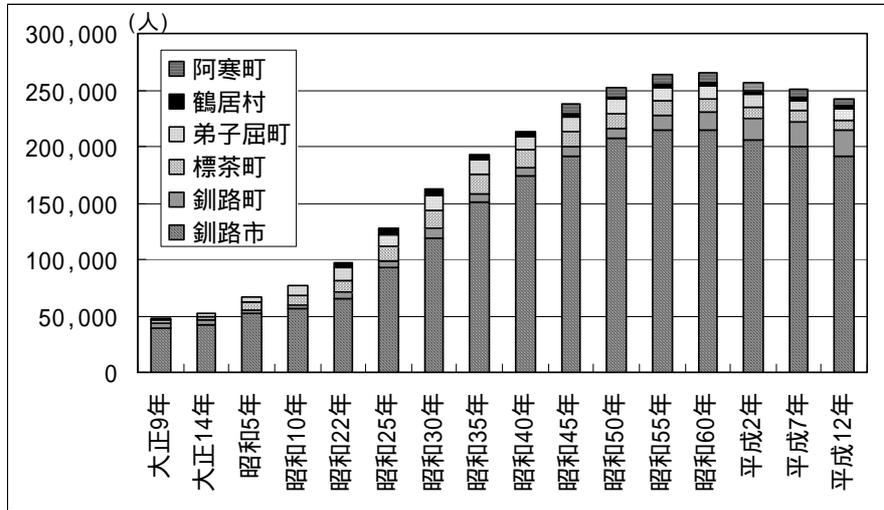


図 2-12 国勢調査人口の推移

表 2-2 市町村別世帯数、人口総数、面積、人口密度

市町村名	世帯数				人口							面積 (km ²)	人口密度 (1km ² 当たり)
	平成12年	平成7年	増加数	増加率 (%)	平成12年			平成7年	増加数	増加率 (%)			
					男	女	計						
釧路市	79,796	77,580	2,216	2.9	91,694	100,045	191,739	199,323	7,584	3.8	221.61	865.2	
釧路町	7,886	7,209	677	9.4	11,046	11,432	22,478	21,986	492	2.2	252.56	89.0	
標茶町	3,406	3,397	9	0.3	4,553	4,835	9,388	10,015	627	6.3	1,099.56	8.5	
弟子屈町	3,977	3,914	63	1.6	4,606	4,887	9,493	9,954	461	4.6	774.70	12.3	
鶴居村	915	921	6	0.7	1,338	1,390	2,728	2,759	31	1.1	572.00	4.8	
阿寒町	2,959	2,901	58	2.0	3,273	3,523	6,796	7,050	254	3.6	739.37	9.2	
合計	98,939	95,922	3,017	3.1	116,510	126,112	242,622	251,087	8,465	3.4	3,659.80	66.3	

平成12年国勢調査(平成12年10月1日)

(3) 産業別就業者人口

釧路川流域6市町村の産業別就業者人口を比較するとサービス業を始めとする第3次産業が多く、第1次産業である農林漁業従事者は、就業者全体の6%程度である

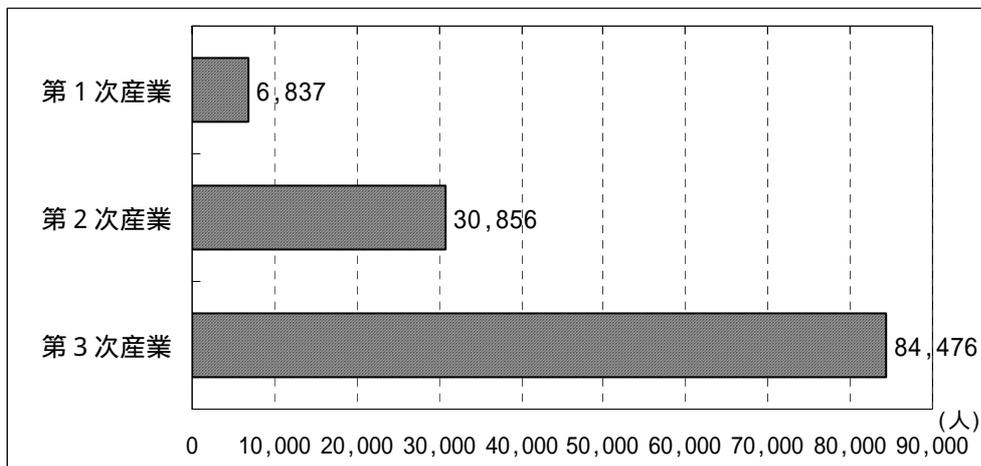


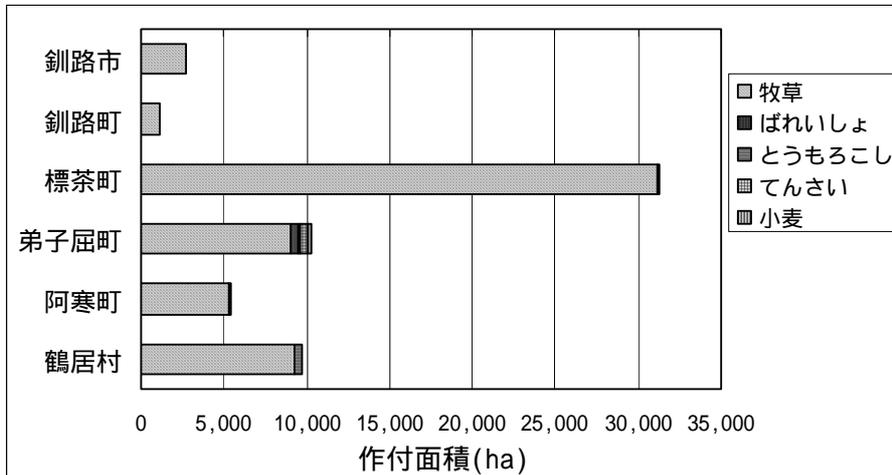
図 2-13 産業別就業者人口 (H7年度)

(4) 農業・水産業の状況

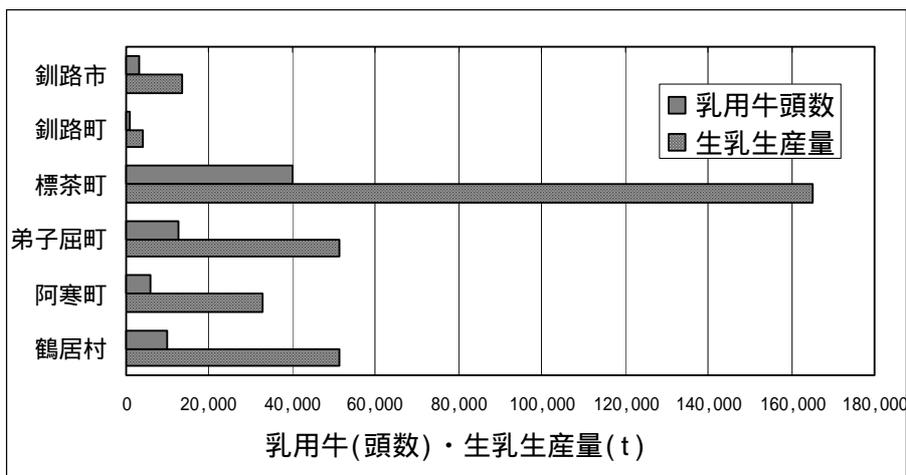
釧路川流域関連6市町村の農業は、酪農（生乳生産）が主体となっている。水産業は、釧路市、釧路町でサケ、スケトウダラなどが主要な漁獲量を占める。

出典：「第26回平成13年北海道市町村勢要覧」

主要農作物作付け面積（H12）



酪農：乳用牛頭数（H12）及び生乳生産量（H11）



水産業：魚種別漁獲量（H11）

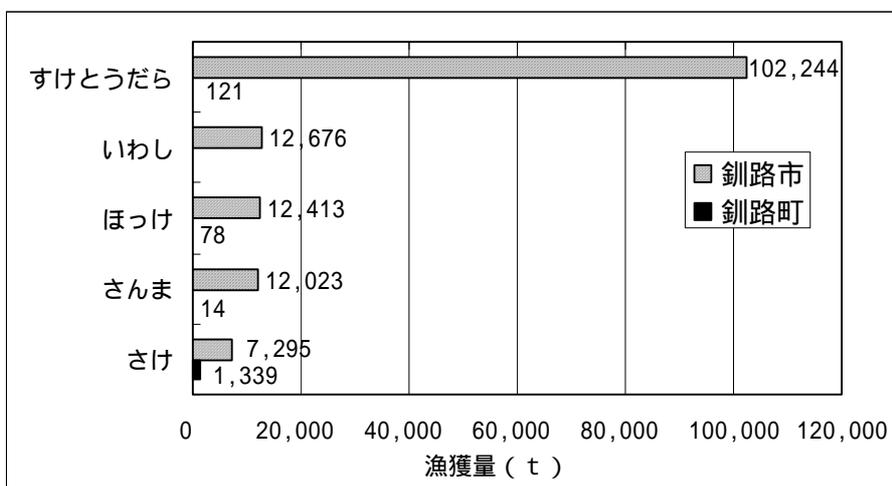


図 2-14 農水産業の状況

2 - 6 . 流域の気象 (気温、降水量)

釧路地点と標茶地点の平成4年～平成13年の10ヶ年平均で、気温、日照、降水量の年間変動を旭川、札幌との対比で示した。

流域気候の特性としては、年間を通じ冷涼で、冬期間以外の期間の降水量が比較的多い。また、夏期の日照量が少ないが、これは霧の発生頻度が高いことに起因する。

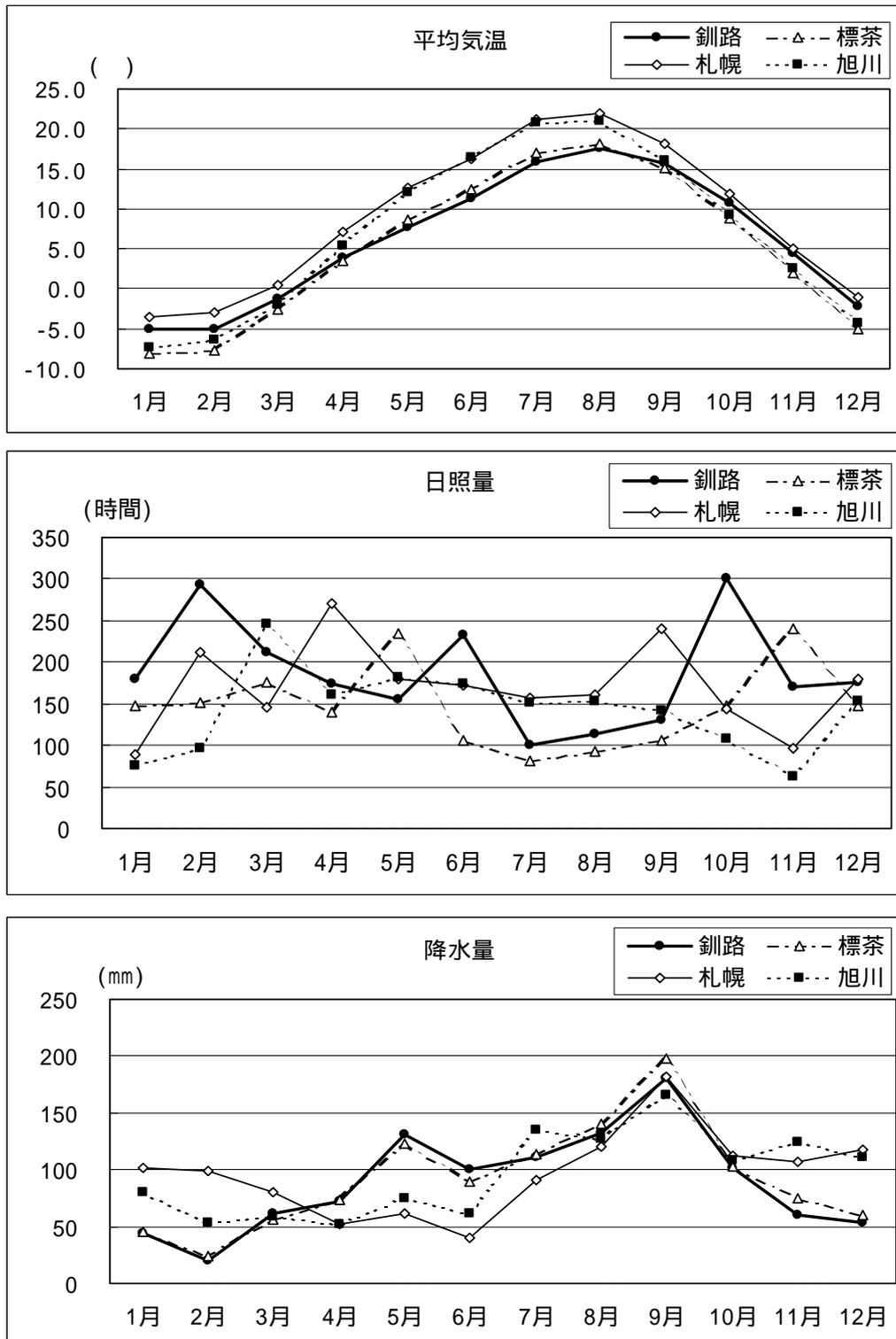
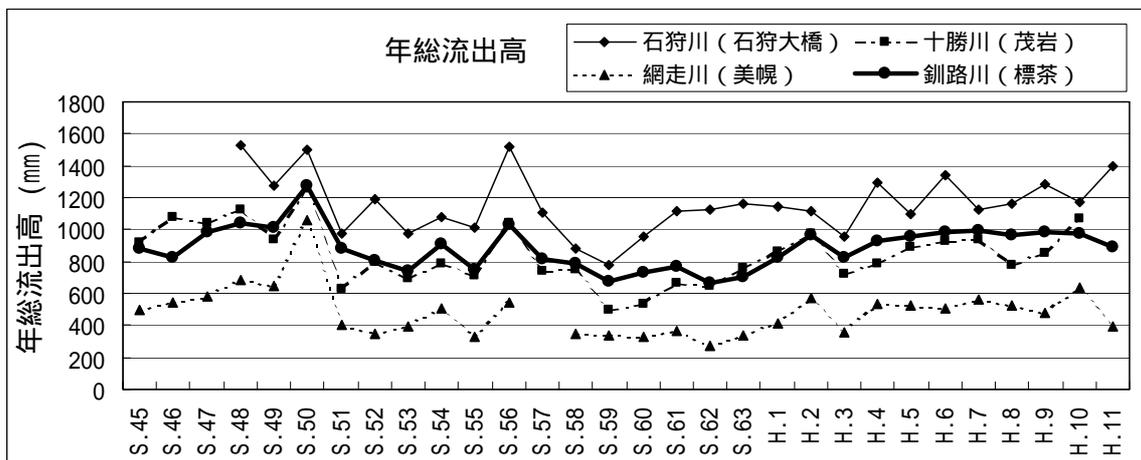


図 2-15 流域の気象状況

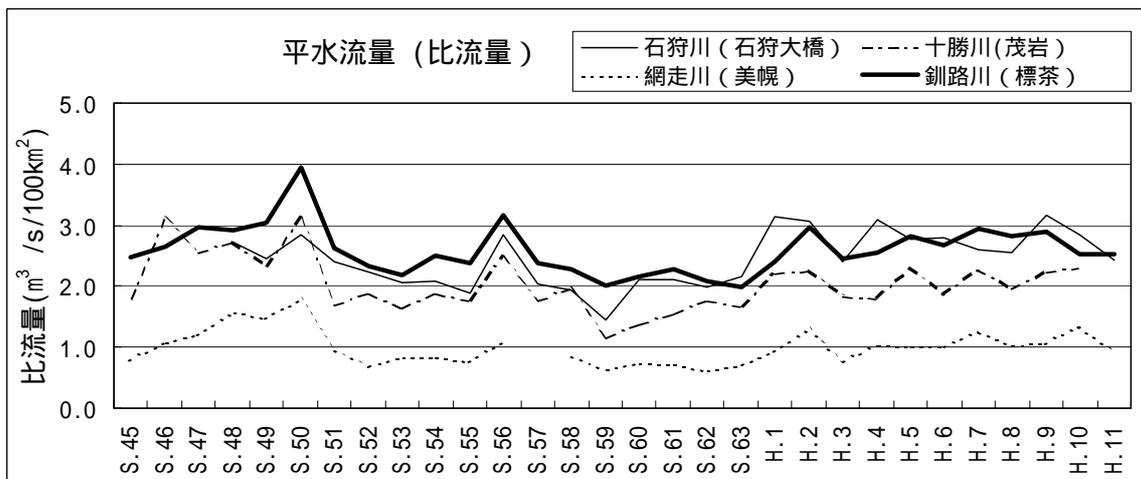
2 - 7 . 釧路川の流況 (S45 ~ H11)

釧路川の流況を他河川と比較すると、年総流出高は、一般的に降雨量が多いとされる日本海側の石狩川に比べ、道東3河川の年降雨量の少ないことが現れている。また、平水、湯水の流況で見ると、釧路川の流況がかなり良い状況となっている。これは、屈斜路湖、釧路湿原といった自然の貯留効果による釧路川の流出特性を良く表している。

年総流出高



平水流量 (比流量) (年間で185日はこれを上回る流量)



湯水流量 (比流量) (年間で355日はこれを上回る流量)

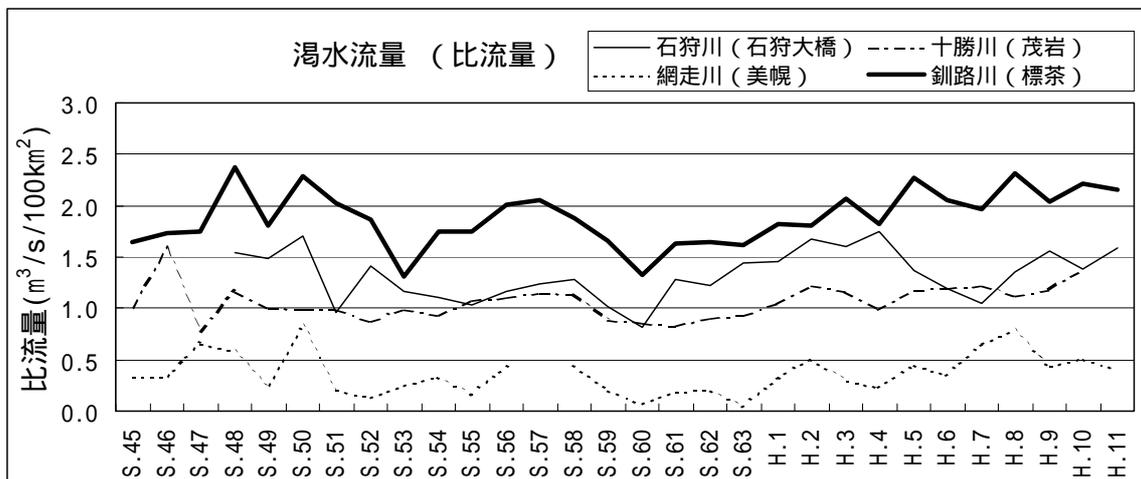


図 2-16 釧路川 (標茶地点) の流況

2 - 8 . 釧路川における主な既往洪水

釧路川の主要な洪水は、戦前では大正9年8月の低気圧がもたらした長雨による洪水がある。この時の総雨量は400mm近くとなり、新釧路川開通前であり下流部の釧路市街地が浸水した。この洪水が釧路川における治水事業着手のきっかけとなった。戦後では、昭和35年3月の高温と大雨による融雪出水により標茶地点で778m³/sを記録し、床下浸水1482戸、床上浸水722戸を生じた洪水がある。

表 2-3 既往洪水の概略

洪水名	種別	降雨パターン	標茶地点 流域平均雨量	流量(m ³ /sec)	水位(m)	記事
1898 明治31年9月6～8日	集中豪雨		130.0mm			釧路支庁管内の釧路阿寒・白糠・川上・足寄の5郡、家屋浸水31戸 畑被害53ha、道路・橋梁の破損多し
1920 大正9年8月8～14日	低気圧	全流域	385.0mm	河口 1,000～1,100	河口 2.21 標茶 24.24	死者・行方不明10、負傷者2名、家屋流失39、床上浸水1,437、床下同701戸、鉄道不通・橋梁流出、氾濫面積17,100ha
1935 昭和10年9月25～26日	台風	全流域	101.9mm			釧路支庁管内家屋全壊10、同流出7、同半壊27、浸水101戸、橋梁流失4、同破損3、堤防決壊1箇所、農地浸水60ha
1936 昭和11年10月2～5日	台風	全流域	129.7mm			釧路支庁管内死者7、行方不明6名、家屋破壊46、同浸水8、非住家倒壊7戸、橋梁破損3箇所
1941 昭和16年9月4～6日	台風	全流域	194.0mm	標茶 約800		
1947 昭和22年9月14～16日	台風	全流域	135.7mm	標茶 618	標茶 22.60	全道的に死者10、行方不明1名、家屋倒壊33、同流失20、同浸水7,288戸、田畑冠水7,261ha、橋梁流失194、堤防決壊75箇所
1960 昭和35年3月12～15日	低気圧	全流域	117.5mm	標茶 778	標茶 岩保木 23.43 4.70	釧路支庁管内全域 家屋床上浸水722、床下同1,482戸、道路決壊53、橋梁流失損壊15、堤防決壊2箇所、畑冠水252ha、鉄軌道損壊29箇所、電話用電柱流失5本、ケーブル障害60箇所
1962 昭和37年4月3～4月	低気圧	全流域	26.0mm	標茶 238	標茶 21.77	
1965 昭和40年9月10～12日	台風	上流主体	109.6mm	標茶 弟子屈 144 70	弟子屈 標茶 100.18 21.38	南弟子屈地区氾濫、畑冠水4ha、橋梁流失2箇所
1975 昭和50年5月17～18日	低気圧	中・上流主体	162.0mm	弟子屈 標茶 70 187	弟子屈 標茶 100.59 21.70	釧路支庁管内全域死者1、負傷者4名、家屋全壊4、同半壊23、床上浸水139、床下同441戸、道路損壊169、橋梁同9、山・崖崩れ77、堤防決壊95箇所、耕地冠水52ha、国鉄運休181本
1979 昭和54年10月18～20日	台風	全流域	166.4mm	標茶 弟子屈 428 93	標茶 弟子屈 22.26 101.90	釧路市・弟子屈町で家屋床上浸水109、床下同256戸、釧路村家屋床上床下浸水330戸、崖崩れ11箇所
1979 昭和54年11月28～29日	低気圧	全流域	113.1mm	標茶 弟子屈 212 60	標茶 弟子屈 21.29 101.29	
1981 昭和56年10月22～26日	台風	全流域	106.2mm	広里 標茶 弟子屈 197 434 73	広里 標茶 弟子屈 2.71 22.43 101.46	
1985 昭和60年9月7～8日	低気圧	全流域	140.7mm	標茶 弟子屈 307 48	標茶 弟子屈 21.72 101.04	
1990 平成2年11月10～11日	低気圧	全流域	73.6mm	標茶 弟子屈 372 44	標茶 弟子屈 21.47 100.87	
1991 平成3年8月21～22日	気圧の谷	全流域	93.1mm	標茶 弟子屈 228 19	標茶 弟子屈 20.89 100.54	
1991 平成3年10月17～18日	低気圧	全流域	70.0mm	標茶 弟子屈 222 30	標茶 弟子屈 20.86 100.72	
1992 平成4年8月9～10日	低気圧	全流域	80.9mm	標茶 弟子屈 228 43	標茶 弟子屈 21.25 100.84	
1992 平成4年9月11～12日	台風	全流域	175.0mm	標茶 弟子屈 324 68	標茶 弟子屈 21.85 101.07	
1995 平成7年9月27～28日	低気圧	全流域	83.0mm	標茶 弟子屈 264 64	標茶 弟子屈 21.36 101.00	
1998 平成10年8月28～30日	前線豪雨	〃	151.6mm	標茶 弟子屈 267 61	標茶 弟子屈 21.38 100.98	床上浸水3戸、床下浸水26戸

出典：「水害」 平成3年8月発行 発行：財団法人北海道開発協会

釧路川水系 釧路川 標茶基準地点
主な既往洪水

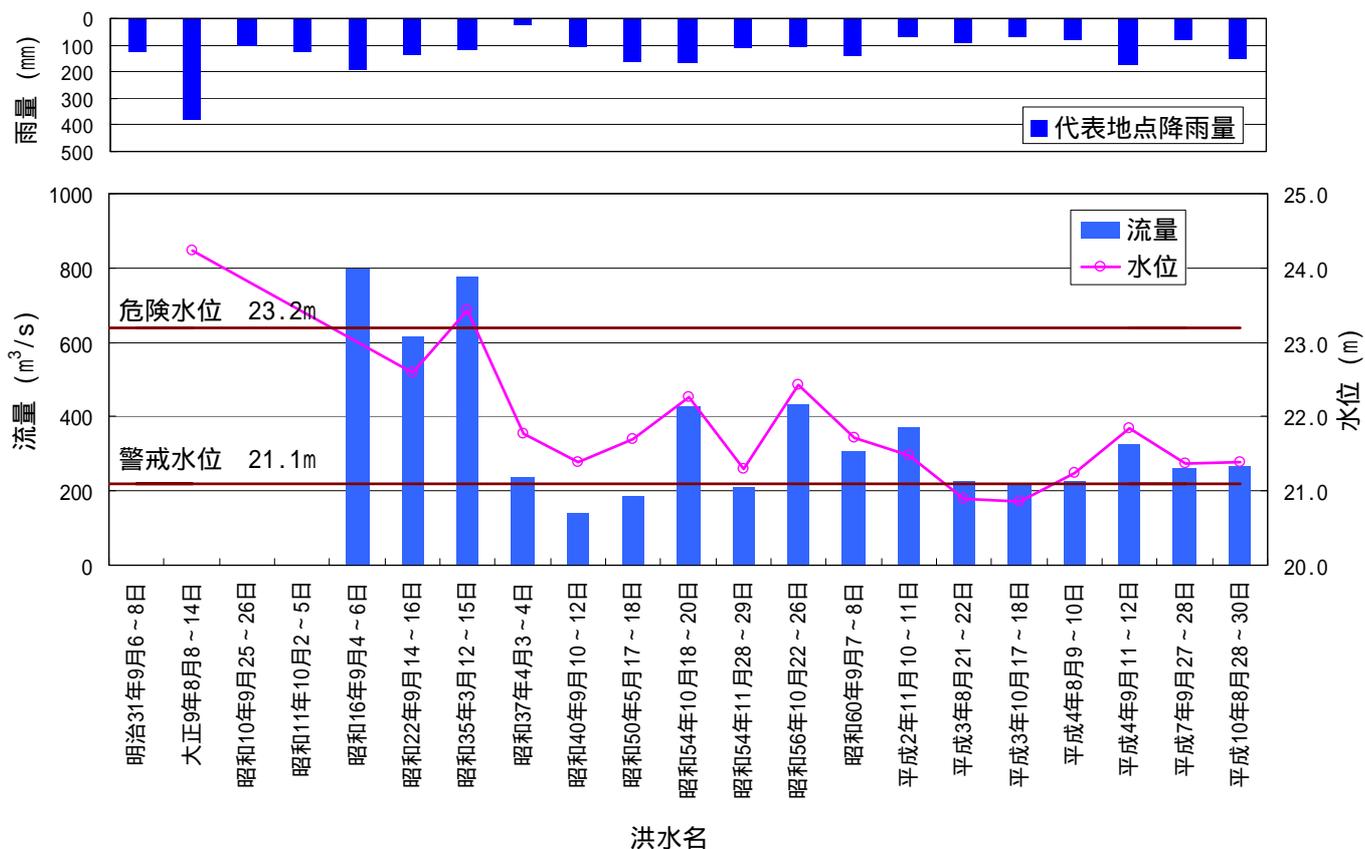


図 2-17 主な既往洪水 (標茶基準地点)



大正9年8月洪水 (釧路川洪水の光景)



昭和35年3月洪水 (標茶町の氾濫状況)



平成6年2月22日高潮 (釧路川河口付近の溢水)

2 - 9 . 釧路川の水質 (BOD) 経年変化

釧路川の5つの環境基準地点でBOD75%値*の経年変化を以下に示す。上流の瀬文平橋地点で、近年基準を上回る傾向が見られるが、他の地点は基準値を達成している。

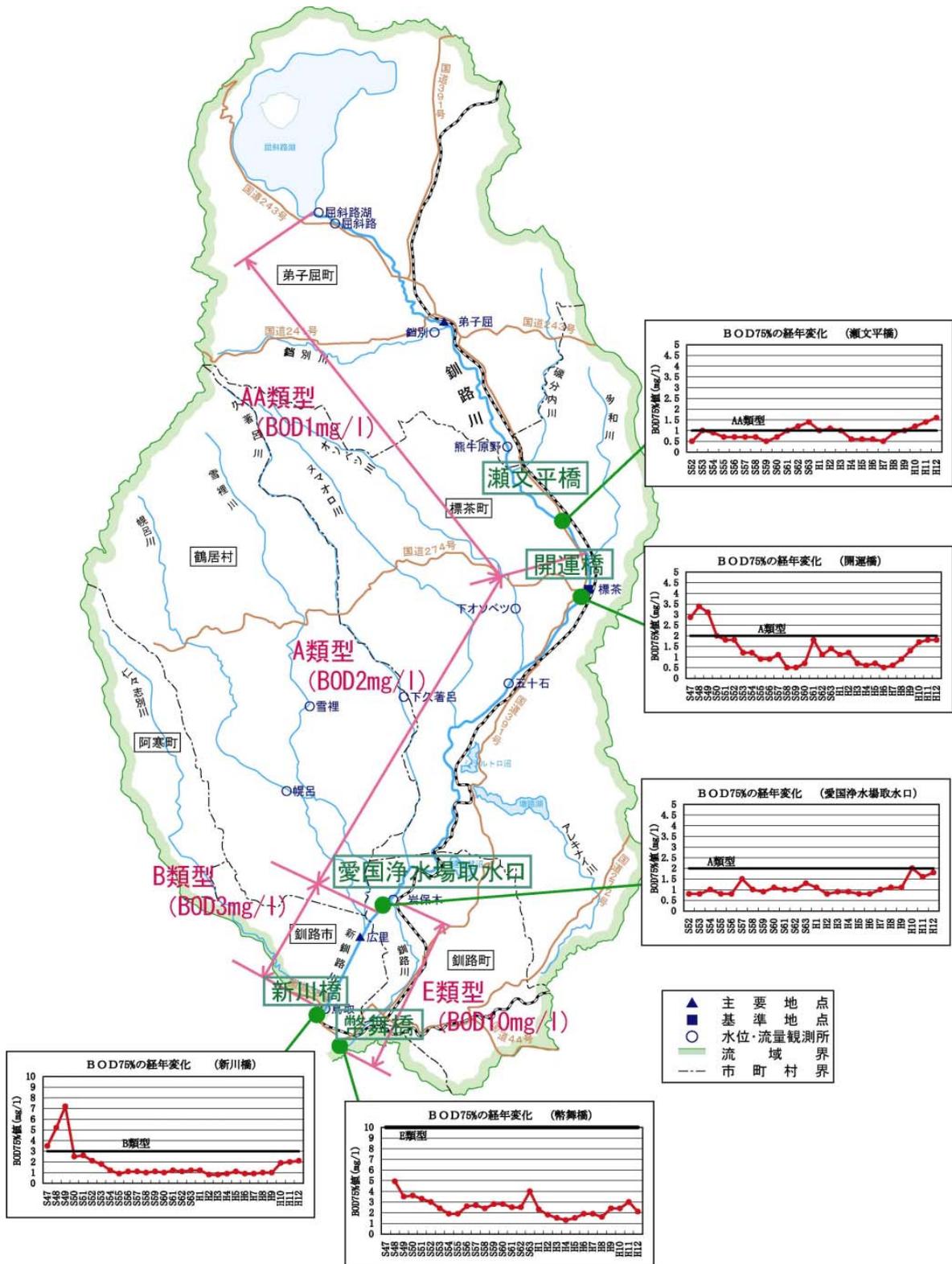


図 2-18 各地点における BOD 75% 値の経年変化

* BOD75%値 : BODの年間変動値を昇順に並べた時の、75/100(=75%)の順位に相当する値

2 - 1 0 . 釧路川の利水状況

釧路川の水は、主として水道用水、工業用水に利用されており、他に雑用水も少量ではあるが利用されている。全体の取水量に対し水道用水が 35.0%、工業用水が 63.3%という利水状況になっている。

表 2-4 釧路川水系水道用水一覧表

河川名	取水口の位置	使用者名	取水量 (m ³ /s)	許可年月日
新釧路川	釧路町岩保木地先	釧路市	1.35600	S32.5.13
鑑別川	弟子屈町高栄 3 丁目 151 番地 4 地先	弟子屈町	0.00793	S32.8.9
オピラシケ川 (別保川)	釧路町字床丹 114 の 42 番地先	釧路町	0.00594	S55.6.30
サンタクンベ川 (別保川)	釧路町字別保 105-225 地先	釧路町	0.01110	S27.9.27

表 2-5 釧路川水系工業用水一覧表

河川名	取水口の位置	使用者名	取水量 (m ³ /s)	許可年月日
新釧路川	釧路市昭和 190 番 67 地先	日本製紙 K.K.	2.50000	S48.3.22

表 2-6 釧路川水系雑用水一覧表

河川名	取水口の位置	使用者名	取水量 (m ³ /s)	許可年月日	使用目的
新釧路川	釧路市昭和 190 番 67 地先	北海道旅客鉄道 K.K.	0.00480	S 49.11.25	雑用水
新釧路川	釧路市昭和 190-4452 番地先	釧路市漁業協同組合	0.02300	S 63.2.12	養魚用水
鶴居芦別川	鶴居村字雪裡原野北 6 線 6-1 地先	(社)北海道さけ・ます増殖事業協会	0.01300	S 48.8.14	養魚用水
鶴居芦別川	鶴居村字雪裡原野北 6 線 6-1 地先	さけ・ます資源管理センター	0.02870	S 61.8.25	養魚用水
磯分内川	標茶町字奥熊牛原野基線 10 番地 1 地先	標茶町	0.00093	S 44.7.30	営農用水

出典：「平成 12 年一級水系水利権調書」

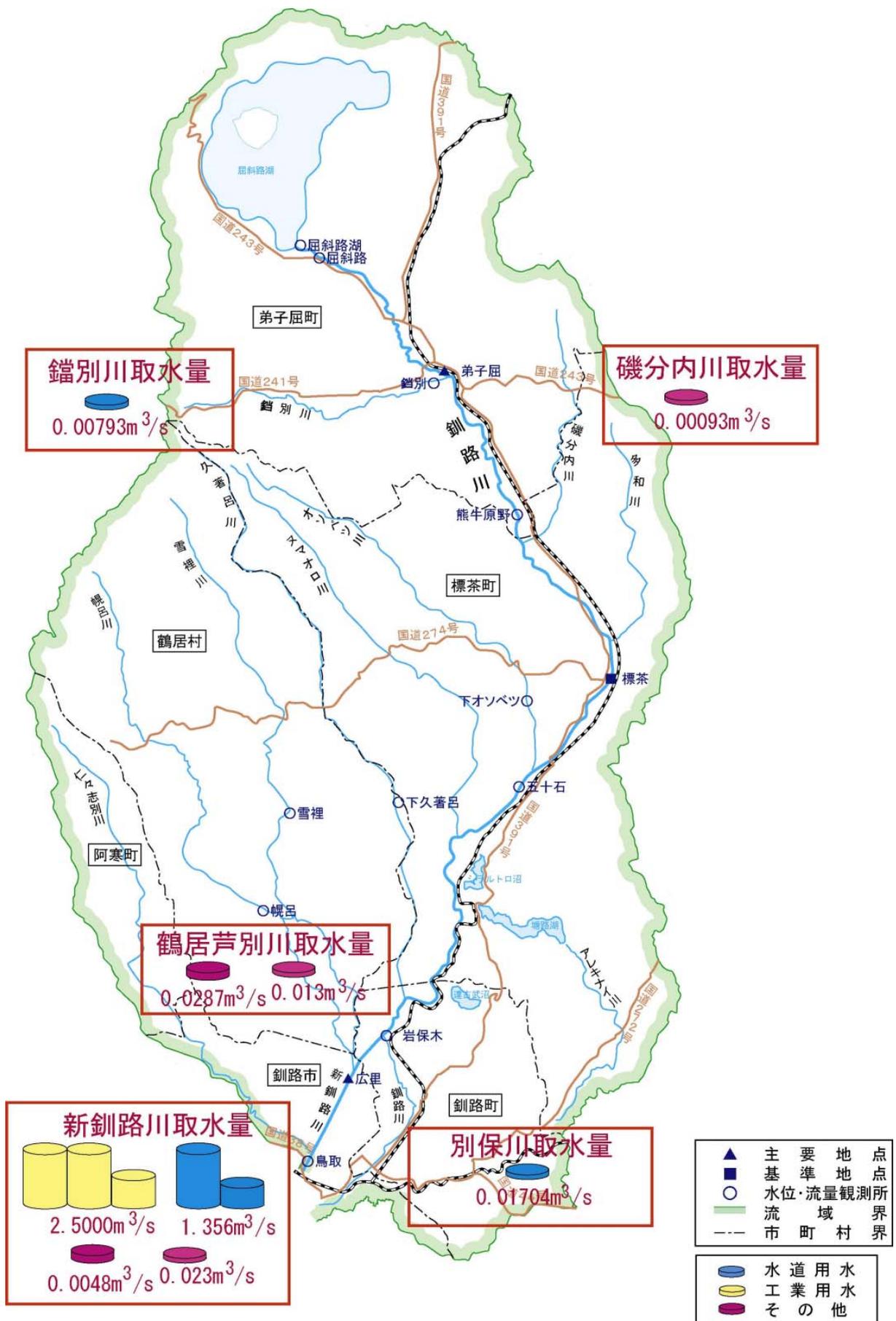


図 2-19 釧路川利水状況

2 - 1 1 . 流域の主な景観・環境

流域を代表する釧路湿原は、東、北、西を丘陵に囲まれた日本最大の湿原であり、一帯はかつて海であったが、次第に海が後退し、3千年程前に現在の姿となった。湿原の東側にはシラルト口沼（177ha）、塘路湖（627ha）、達古武沼（131ha）の3つの海跡湖があり、淡水魚の良好な生息環境となっている。この湿原には様々な動植物が生育・生息しており、河川水辺の国勢調査によれば、植物110科738種、鳥類164種、両生類4種、爬虫類5種、哺乳類27種、昆虫類1021種、魚類34種が確認されている。

(1) 河川景観



屈斜路湖（国立公園）



上流部（鑑別川合流点）



中流部（標茶）



下流部（湿原内の蛇行）



河口部

(2) 釧路流域の文化財等指定状況

表 2-7 釧路流域の文化財

国立公園

名 称	指定主体	指定年月日	面積 (ha)
阿寒	国	昭和 9 年 12 月 4 日	90,481
釧路湿原	国	昭和 62 年 7 月 31 日	26,861

特別天然記念物

名 称	指定主体	指定年月日	所在地等
タンチョウ	国	昭和 27 年 3 月 29 日	釧路、根室、十勝地方に多く生息し、現在 600 羽以上に増え、最近は人家、国道の近くまで、姿を見せている。

天然記念物

名 称	指定主体	指定年月日	所在地等
春採湖ヒブナ生息地	国	昭和 12 年 12 月 21 日	釧路市・春採湖全域 (36.1ha)
釧路湿原	国	昭和 42 年 7 月 6 日	釧路町・標茶町・鶴居村 (5,011.5ha)
キタサンショウウオ	釧路市	昭和 50 年 12 月 12 日	主な生息地 釧路湿原
砂岩脈 (サンド・ストーン・ダイク)	釧路市	昭和 50 年 12 月 12 日	釧路市興津 3 (興津海岸)
谷地坊主 (ヤチボウズ)	釧路市	昭和 50 年 12 月 12 日	釧路市鶴丘 112 釧路市丹頂鶴自然公園内 (7,000 平方メートル)
屈斜路湖マリゴケ	弟子屈町	昭和 44 年 7 月 11 日	屈斜路湖
和琴ミンミンゼミ発生地	国	昭和 26 年 6 月 9 日	弟子屈町字和琴

その他

名 称	指定主体	指 定 年	面 積 (ha)
国設鳥獣保護区	環境省	昭和 33 年	約 1 万 2 千
ラムサール条約登録湿地	環境省	昭和 55 年	約 8 千
河川区域	国土交通省	平成 12 年	約 1 万 6 千

(3) 釧路川の自然



ヨシ-スゲ群落とハンノキ林



クロユリ



クシロハナシノブ A



ヤチボウズ



タチギボウシ



ホザキシモツケ

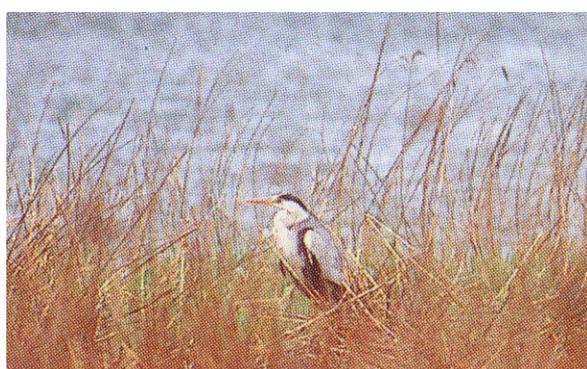
出典： A：「Introduction of KUSHIRO 釧路湿原」 北海道地図（株）



エゾシカ A



タンチョウ A



アオサギ A



エゾシマリス A

出典： A：「Introduction of KUSHIRO 釧路湿原」 北海道地図（株）



オオハクチョウ A



オジロワシ



イジマルリボシヤンマ



シロオビヒメヒカゲ

著作権の都合上、画像は掲載できません。

イトウ B

著作権の都合上、画像は掲載できません。

キタサンショウウオ B

出典： A：「Introduction of KUSHIRO 釧路湿原」 北海道地図（株）
B：「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」
釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会

(4) 注目すべき生物種の確認状況

河川水辺の国勢調査により、釧路川周辺で確認された注目すべき生物種は以下の通り。

表 2-8 釧路川周辺の注目すべき生物種の確認状況

区 分	調査年次	確認種総数	注目種確認数	代表的なもの
鳥類	H5.10	94	15	オジロワシ、タンチョウ、チュウヒ、カワセミなど
魚類	H2.6.11	44	18	イトウ、スナヤツメ、エゾホトケドジョウなど
底生動物	H6.11	124	-	
植物	H3.4.8	547	176	ノダイオウ、エゾキンポウゲ、クロミサンザシなど
両生類	H5.9	3	1	キタサンショウウオ
爬虫類	H5.9	3	-	
哺乳類	H5.9	13	1	カラフトアカネズミ
陸上昆虫類	H7.12	1551	26	チャマダラセセリ、ゴマシジミなど

注目種の選定根拠（以下により、主に希少性の観点から指定されているもの）

- ・天然記念物（文化財保護法、文化財保護条例）
- ・種の保存法
- ・レッドリスト
- ・北海道レッドデータブック
- ・第1回自然環境保全調査
- ・第2回自然環境保全基礎調査

2 - 1 2 . 釧路川の利用状況

(1) 観光・レクリエーション

流域では、観光、釣り、カヌー、トレッキング、バードウォッチング等の自然環境に親しむ活動を中心として、広く利用されている。

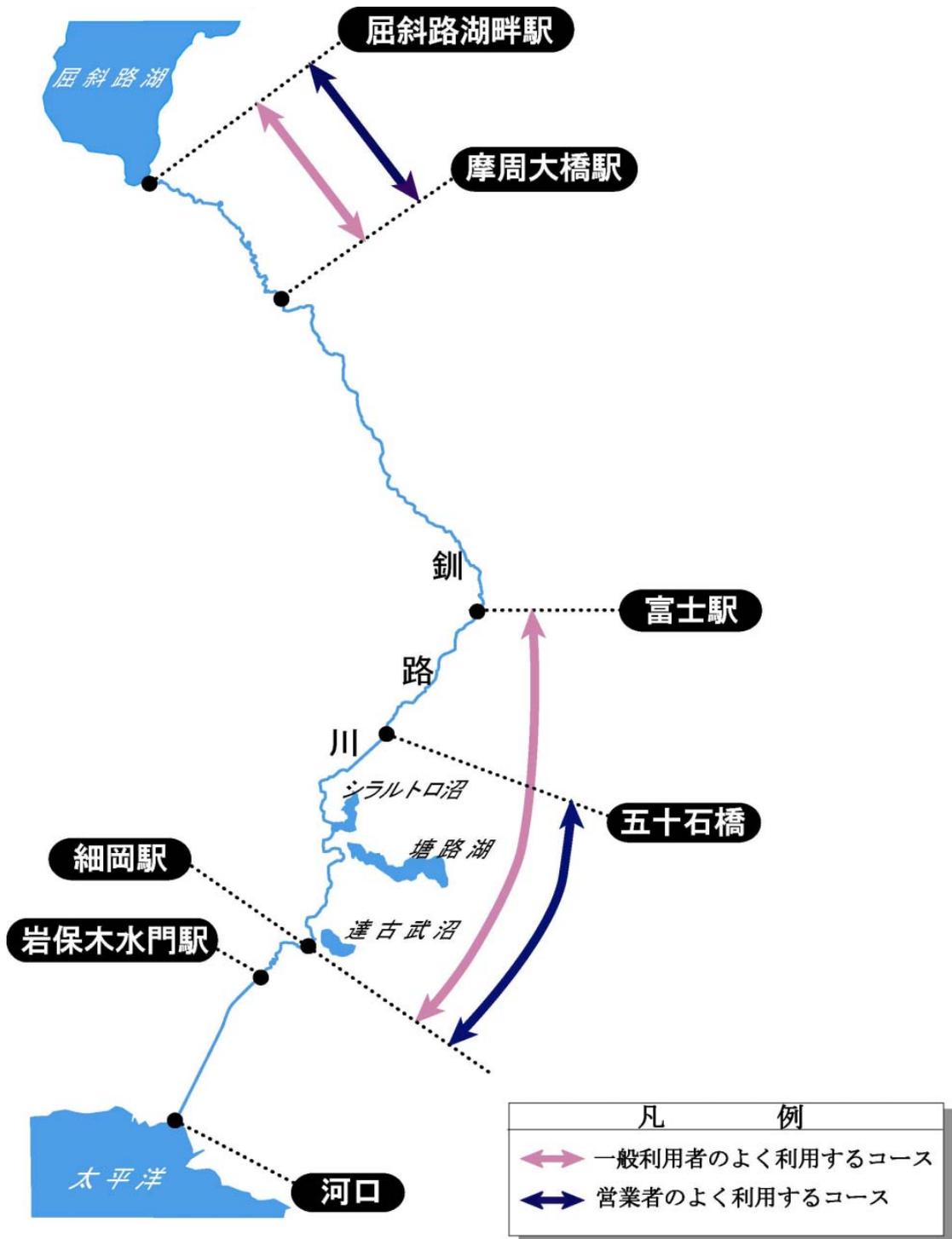


図 2-20 カヌー利用総括図

釧路川における		
カヌー利用艇数	約 4,300 艇	出典：第 5 回湿原利用小委員会
カヌー利用人数	約 12,000 人	

表 2-9 観光客入込み数

市町村名	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
釧路市	2,686,074	2,673,416	2,690,110	2,690,491	2,909,060	2,631,300	2,567,800	2,812,700	2,507,200	2,429,800
釧路町	101,641	158,468	144,681	149,008	154,473	152,200	150,300	157,300	142,000	130,200
標茶町	221,306	258,208	159,845	150,203	140,514	144,700	123,300	187,100	208,000	221,300
弟子屈町	4,356,404	4,078,110	3,971,469	3,888,868	3,836,805	1,230,800	1,237,500	1,246,100	1,171,400	1,222,800
鶴居村	60,470	64,730	59,160	59,150	59,400	298,000	260,100	267,100	241,200	237,800
阿寒町	1,578,211	1,416,389	1,507,335	1,583,399	1,571,769	1,898,800	1,975,300	1,937,000	1,679,700	1,800,500
合計	9,004,106	8,649,321	8,532,600	8,521,119	8,672,021	6,355,800	6,314,300	6,607,300	5,949,500	6,042,400

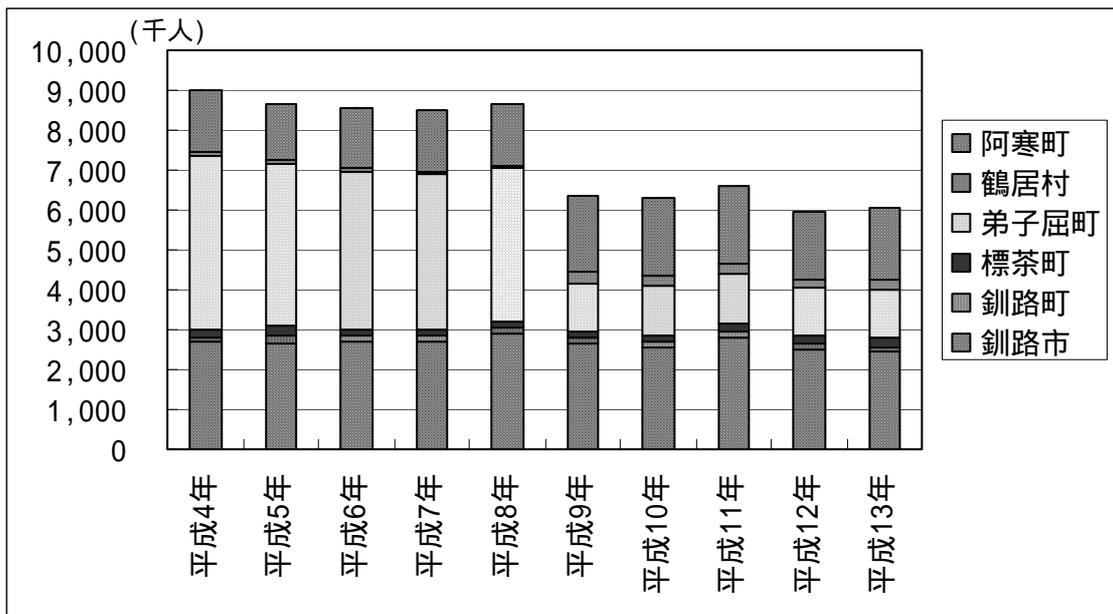


図 2-21 観光客入込み数

出典：H4～H8；観光入込客数調査報告書（北海道商工労働観光部観光室）
 H9以降；観光入込客数調査報告書（北海道経済部観光局）

平成9年以降は、入り込み客数のカウント方法が「延べ人数」方式から、「実人数」方式に変更されている。



図 2-22 (1) 釧路川利用状況（上流部） H13 年時



図 2-22 (2) 釧路川利用状況(下流部) H13年時



標茶町：緑地公園（子供の夢を育てるまつり 7月）



釧路川カヌー下り



釧路市：緑地公園内パークゴルフ場



釧路市：ぬさまい広場及び物揚場（写生会）



釧路市：緑地公園

(2) 内水面漁業の現状

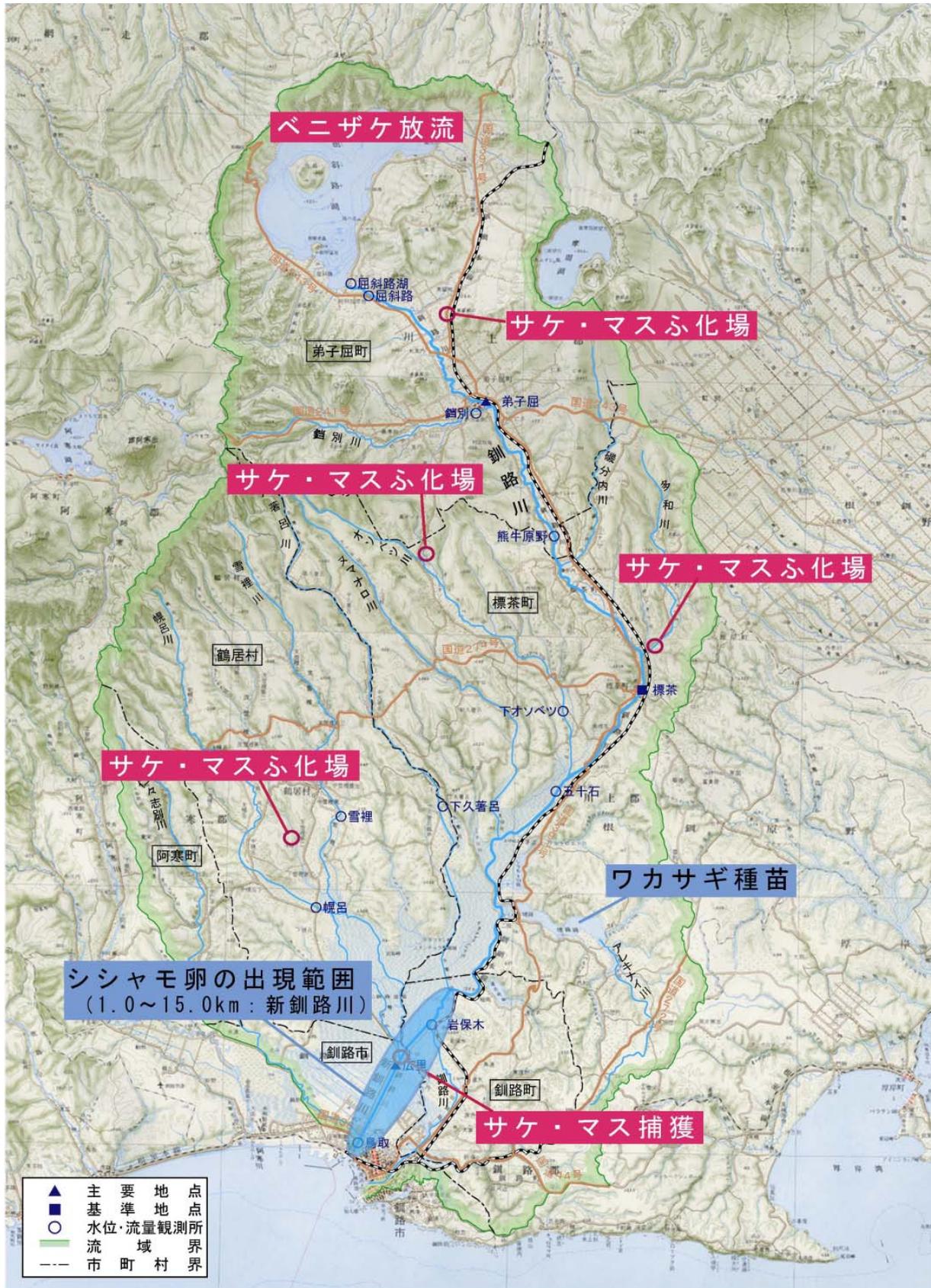
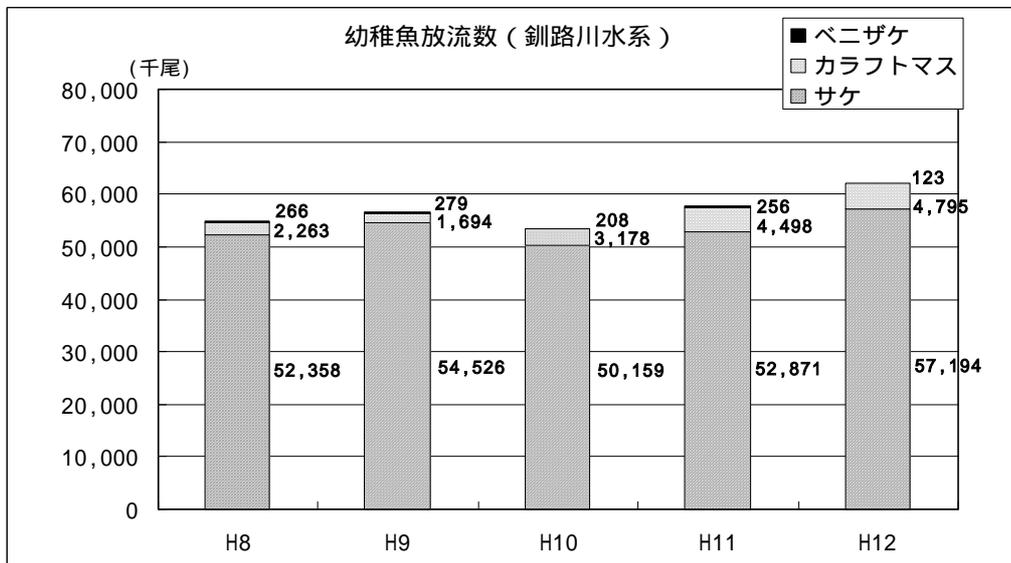
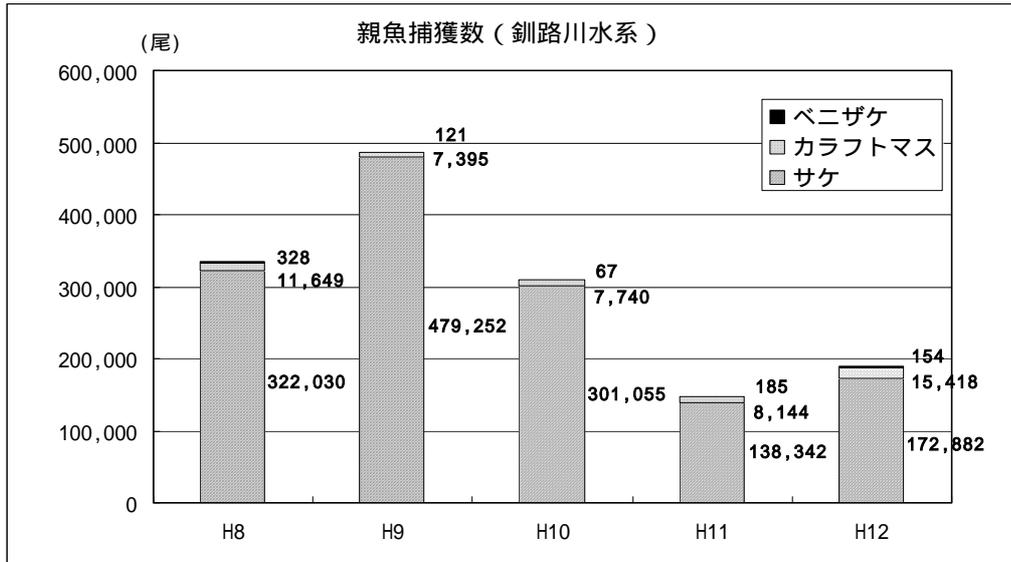
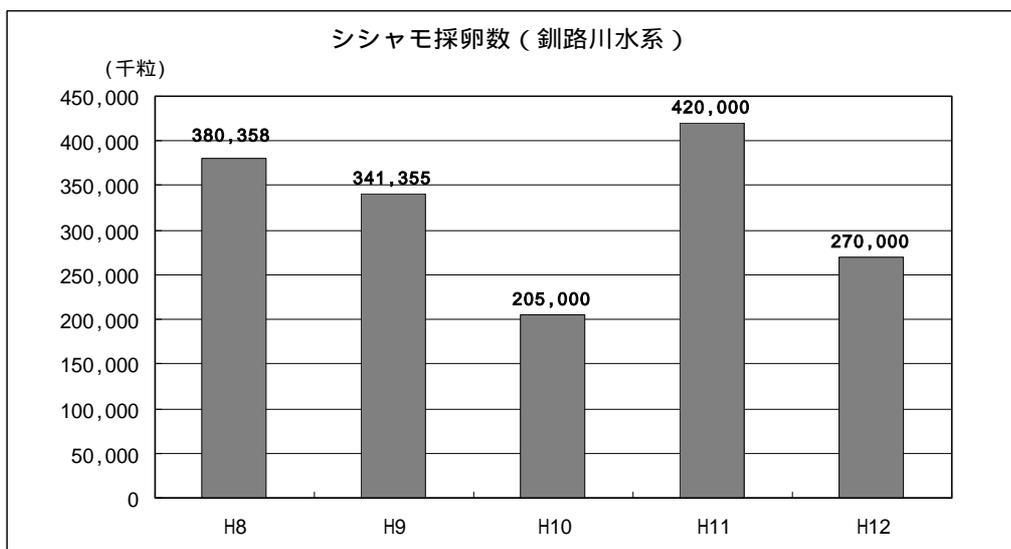


図 2-23 漁業権対象魚種（シシャモ）とサケ・マス等、代表的な魚種の現状



出典：平成14年度 さけ・ます資源管理センター資料



出典：「平成12年度 釧路の水産」北海道釧路支庁

図 2-24 魚種別生産量の推移